

全校生徒の皆さん、おはようございます。

「災害級」と言われた昨年の猛暑に負けず劣らず、今年も7月下旬から酷暑が続きました。最近は何分暑さも収まった感じがしますが、まだまだしばらくの間は残暑厳しいと予想されます。体調管理には十分気を付けて学校生活を送るようにしてください。

本日は、長野市へ出張の仕事が入ってしまいましたので学校を留守にします。この後、教頭先生からお話をしてもらいますが、私からは一点、皆さんにお願いをします。

まず3年生です。いよいよ進路実現に向けて忙しくなります。進学にしても就職にしても、ここで皆さんの人生の方向性が決まると言っても過言ではありません。悩み迷うこともあるかもしれませんが、保護者、先生、先輩あるいは近所のおじさんやおばさんたちと話をすることで解決することもあるかもしれません。大いに悩み、たくさんの人と語り合ってください。

1・2年生は、3年生に代わって生徒会活動、部活動等の担い手となって学校を引っ張る存在となります。いろいろな方面から蘇南高校が良くなっていると聞こえてきますが、それは一朝一夕で形成されたものではありません。皆さんはもちろん、卒業した先輩たちの努力の積み重ねも大きいと思います。是非、このいい流れを継続するように、高校生活に真正面から打ち込んでほしいと願っています。

（以下、教頭先生より）

8月19日NHK放送「逆転人生 東京パラリンピック SP」を見た方がいるかと思います。その中で、ボッチャ日本代表ヘッドコーチ村上光輝監督のお話です。タイトルは「大事な大会で予想外の惨敗から指導法を変えたら大逆転」です。指導法に係るお話でしたが、困難な壁を乗り越えていくための重要なヒントがあると思いましたので、紹介したいと思います。

村上監督は、「スポーツは人を成長させる」と確信していた。スポーツの魅力を伝えたいと考え、特別支援学校の先生となった。バスケットボールやフライングディスクだけでなく、重い障がいのある生徒にも参加できるようにボッチャを導入し普及した。日本代表コーチにまでなった。2011年、世界大会で銀メダル獲得。ところが、2014年世界選手権で監督の指示通りに試合展開して予想外にも惨敗。フォームや強さ、ゲーム戦術など細かく指示してトップダウン型の指導をしていたということです。

監督は今までを振り返ってみると、「障がいの繊細さの不理解」や、「選手からの意

見の吸い上げ」がなされていなかったことに気づいた。そこから、黒子としてチームをサポートする指導のスタンスへと大きく変えた。道具や練習方法を選手一人ひとりに聞くようにした。他のコーチにも選手の事を丁寧に聞いていった。そこで初めて障がいの特性が様々あることにも気づいた。それからは、選手は自分で考えるようになり、技術がものすごく上達した。更に、キャプテンを中心に自分たちで話し合って決めるようになった。国際大会でも上位争いをするようになった。2016年リオパラリンピックで強剛12カ国の中、決勝トーナメントで攻め続け、大量得点を狙っていった。その結果、銀メダル獲得となった。

この番組を通して、監督の原因究明の姿勢、ある程度自信を持ってきた選手一人ひとりが自分でより良い方向を考え、また自分たちで話し合っ壁を乗り越えようとすることの重要性を感じました。

これから秋に向け1年間の中での追い込みの時期を迎えます。自分のうまくいかないところや悩みを自分だけにとどめず、家族や友達、先生など周囲の皆さんと一緒に方策を考え、それぞれの壁を一つひとつ乗り越えていきましょう。